

1

あとの問いにそれぞれ答えなさい。

(1) 次の①～⑤の——線の漢字の読みをひらがなで答えなさい。

- ① 明朝7時に待ち合わせしましょう。
- ② おとなげなかったと赤面する。
- ③ 粉末ジュースを飲む。
- ④ 妹はとても朗らかに話している。
- ⑤ ギターを奏でる。

(2) 次の①～⑤の——線のカタカナを漢字に直しなさい。

- ① 船のキテキが聞こえる。
- ② 入学式をキョコウする。
- ③ 回復のキザしが見える。
- ④ 父は病院にツトめている。
- ⑤ 合格するようにツトめます。

(3) 次の①～⑤の にあてはまることばをあとから選び、記号で答えなさい。

- ① 妹は父にしかられて、庭で 泣いている。
- ② いつまでも 文句を言っではいけません。
- ③ 父へのプレゼントについて、 相談する。
- ④ 母はパーティー会場へ 出かけた。
- ⑤ 責任の重さを 感じる。

ア ひしひしと イ いそいそと ウ ひそひそと エ さめざめと オ おつおつと

(4) 次の①～⑤の にあてはまる接続のことばをあとから選び、記号で答えなさい。(記号は一度しか選べません。)

- ① 雪が積もった。、物置からソリを出した。
- ② 天気予報では快晴のはずだった。、雨が降ってきた。
- ③ チョコレート クッキーのどちらかを選んでください。
- ④ このラーメンは値段が高い。 味も悪い。
- ⑤ やあ、いいお天気だね。、今、何を勉強しているの。

ア それに イ しかし ウ ところで エ もしくは オ そこで

(5) 次の①～⑤の文には、それぞれ一か所「かなづかい」の誤りがあります。その誤りをふくんだ部分を記号で選び、正しく書き直しなさい。

- ① ア このまま イ 天候が ウ 回復しなければ、 エ 登頂は オ 断念せざるお カ えない。
- ② ア いつまでも イ 決断することが ウ できなかったので、 エ 仕事が オ とどこうって カ しまった。
- ③ ア 「こんばんわ」、 イ 回覧板を ウ 持って エ ききました。
- ④ ア 公園で イ 野球を ウ している エ 子ども達に オ ボールを カ ほおつて キ やった。
- ⑤ ア となり町に イ 住んでいる ウ おじさんから エ おこずかいを オ もらった。

2 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(字数については、「、」や「。」も一字に数えます。)

稲いねを持った人たちが、どこから、どういう経路で来たかは、いまのところ決定的なことはわからない。しかし、日本の長い過去の生活に大変革を起こした稲の種子が、どこからか漂流ひょうりゅうしてきた人によって、偶然ぐうぜんこの日本にもたらされたとするには、確かにそういうこともないとはいえないけれど、やはり、事が重大すぎる。日本という土地を、なにかの機会か、方法で知っている人があつて、そうした人の知識から、相当に多数の人々が日本での永住をめざして、計画的にやってきたのちにちがいない。永住のためには、衣食の準備もしただろう。そこにまく稲の種子も、その中にふくまれていたにちがいない。^②こんなふうを考えるのが、いちばん適當のようだ。

かれらは、いろいろな農工具や日用品を持つて日本にきた。銅器も鉄器もあった。中国大陆にははるかに進んだ文化があつた。紀元前四〇〇年のころから中国では春秋戦国時代である。そのはげしい興亡の中で、吳ごや越えつの国は滅びていく。日本の縄文時代じようもんの後・晩期のことだ。日本に稲の文化を持つて渡ってきたのが、これら敗戦の流民りゅうみんだつたと考えても、必ずしも無理な結びつけではないだろう。かれらは、ひとたびは大陸の中原ちゆうげん（古代中国の中央部）に勢力を競つたほどの民族だから、日本に比べると、やはり高度な文化を身につけていた、ということも考えられる。

非常にさいわいなことに、日本の西南地域は稲作によく適した風土であつた。そして、なおさいわいなことに、縄文時代の中ごろにはじまつた、沖積世うちせきの陸地の上昇運動しやううんどうが、しだいに安定をしてきて、海岸一帯に湿潤しつじゆん（しつ気をあびていること）な沖積平野をつくつていた。これは、水稲すいとうをつくるのに、ころあいの土地だつた。たいへんな労力を必要とする開こん（あれ地を切り開いて田畑にすること）作業を特別にしくなくても、ほとんどそのままの状態の水田がつくれた。

一方、狩猟と漁労しゆりやう（魚や貝などをとること）にしたがつていた日本人にとっては、たとえそこにだれがきても、生活はおびやかされなかつた。^⑤移住者たちは、恐らく、たいした抵抗も受けずに、そこに住むことを承認されたのではあるまいか。住まいも、なんとか世話してもらえたかもしれない。先住の日本人は、あまり争いを知らない平和な中に生きてきていた。かれらは寛容かんよう（心の広さがあること）だつた。その寛容は、まもなく、かれら自身に報いることになった。移住してきた人々から、稲づくりという大きな贈り物を受け、^⑥それによつて、生活安定への大きな道を開くのである。

移住者たちは湿地に種をまいた。それは芽を出し、青々とのびた。むろん、収穫しゆくまでには半年の間がある。そのあいだ、かれらは先住の人たちから採集食料を分けてもらつたりして、飢えをしのいだこともあつたかもしれない。しかしそこには、まもなく収穫の秋がくる。田の雑草を取つたり、水の加減をしたりしたであろう。やがて穂ほが出る。美しい稲穂の波が風にゆれる。わたしたちの祖先は、驚きの目を見はつただろう。不思議さに打たれ、実りの秋への期待と、寄ると触るとうわさで持ちきつただろう。

稲は無事に実つた。移住者たちはその穂を、石包丁で摘みとり、日に干して脱穀だつこく（穀物のもみからを取り除くこと）し、^{*}たてうすに入れてたてきねでついた。たくさん⑦の米がとれた。大地にまいた一握りのもみ（からのついで）が、今こうしていっぱい⑧の米になつたのだ。移住者たちは、もちろん、それを炊いて土地の人々にごちそうしただろう。それはおいしかった。それまで、むしろ好奇きうき（めずらしいことなどに、特に強く気持ちがひかれること）と疑惑ぎわく（強くあやしむ気持ち）とを持つて注がれていた土地の人々の目は、畏敬いけい（身のひきしまるような思いで尊敬すること）に変つたにちがいない。そして、もみはくりやかしの実よりも大量に、安全に蓄えることができ、必要に応じてそれを炊き、空腹を満たすことのできる生命の糧であることを知つた。

土地の人々はおもひ種を分けてもらつた。そして自分たちで稲づくりをはじめた。驚きと喜びのうちに、自分たちの力で、

自分たちの食料をつくり出すという、^⑧まったく新しい生活は、たちまちひろがっていき、やがて人々の多くが、狩猟と漁労だけの採集生活に別れをつけることになった。

(斎藤 忠『日本人の祖先』より。一部表記を改めたところがあります。)

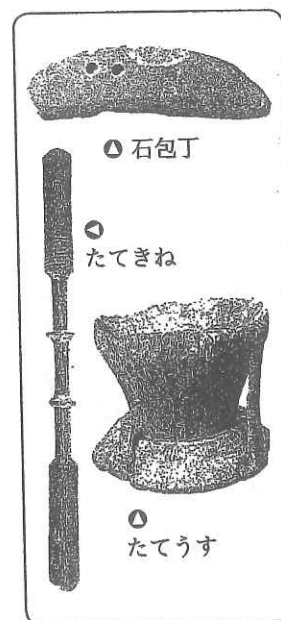
* 流民……戦争などのため故郷や故国をはなれ各地をさすう人びと

沖積世……地球の歴史で、およそ一万年前から現在までのあいだ

沖積平野……川などにはこぼれた土砂がもつてつくられる平野

石包丁……石器の一種。穀類の穂をつみ取る道具

たてうす・たてきね……地面において使ううすときね



問1 ——— 線①「相当に多数の人々がうちがいない」について、次の(1)・(2)の問いに答えなさい。

(1) 「多数の人々」とは、どんな人々ですか。次から選び、記号で答えなさい。

ア どこからか漂流してきた人々

イ 呉や越などの滅びてしまった国の人々

ウ 高度な文明に取り残されてしまった人々

エ 狩猟と漁労の採集生活をしていた人々

(2) 「日本での永住」をめざした理由を筆者はどのように考えていますか。次からあてはまらないものを選び、記号で答えなさい。

ア 国を追われ、住む土地を失ったから。

イ 高度な文化を広めたいと思ったから。

ウ くらしによく適した土地だから。

エ あまり争いのない平和なところだから。

問2 ——— 線②「こんなふう」がさしている部分のはじめとおわりの8字を答えなさい。

問3 ——— 線③「さいわいなこと」とは、どんなことですか。それぞれ25字以内で二つ答えなさい。

問4 ——— 線④「そこ」がさしているものを、文中から16字でぬき出しなさい。

問5 ——— 線⑤「移住者たちは」の後ではあるまいか」とありますが、筆者が、そう考える理由を次から二つ選び、記号で答えなさい。

ア 移住者は、はるかに進んだ文化を身につけていたから。

イ 先住日本人の採集生活を、かれらの生活はおびやかさないから。

ウ 先住日本人は、平和な中に生きていて、寛容だったから。

エ 移住者は、食料や住まいも世話してもらえたから。

オ 移住者は、米をたき土地の人々にごちそうしたから。

問6 ——— 線⑥「それによって、生活安定への大きな道を開く」について、次の(1)・(2)の問いに答えなさい。

(1) 「それ」は、何をさしていますか。

(2) 「生活安定への大きな道を開く」と言える理由を文中から60字で、「くから」に続くようにぬき出し、はじめと終わりの5字を答えなさい。

問7 ———線⑦「移住者たちは、もちろん、ぐちそうしただろう」とありますが、「ぐちそうした」理由を、筆者はどのように考えていますか。筆者の考えにあてはまらないものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 何をやっているのかとあやしまれていたが、米作りだったことを分かってもらいたいため
イ 採集食料を分けてもらい飢えをしのいだことがあったので、お返しをしたかったため
ウ 最高の安定した食料を持った自分たちを尊敬し、何でも言うことを聞くようにするため
エ 勝手にここにやって来たのにたいした抵抗もなく、そこに住むことを許してもらったため

問8 ———線⑧「まったく新しい生活」の時代は、何時代といわれていますか。次から選び、記号で答えなさい。

ア 弥生時代 イ 大和時代 ウ 縄文時代 エ 古墳時代

3 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(字数については、「、」「や」「。」も一字に数えます。)

まいの気分とは裏腹に、外はともいいう天気だった。朝のすがすがしい空気が、陽の光できらきらしていた。裏庭の右手の方から奥に延びている小道を行くと、すぐに鶏小屋があり、それからクヌギやカシ、ハシバミの木やクリの木などの点

まいは

「うわあ、すごい」

とつぶやきながら、それを踏まないように気をつけて歩いた。何だか本当に宝石のようだった。みずみずしく柔らかな、傷つきやすい宝石。まいは足元に神経を集中させて、苦労しながら木立ちを抜けた。

そこは見晴らしのいい丘になっていた。さすがに野いちごの波はここまでは届いておらず、かやつり草などが混じった行儀芝が今度はその丘を覆っていた。あたりはもう、初夏の草いきれのおいさえしていた。

まいはそこに座り、遠くの薄青に輝く山を見つめた。風がすぐ下のクリの木の若葉をそよがせてゆき、遠くでホトトギスが「テッペンカケタカ」と、山々にこだまさせていた。

何だか、ついこの間まで、あの狭い教室の重く煮詰まったような人間関係に身動きもとれないような気がしていたのうそのようだ。

まいは思いきり深呼吸してから、

「エスケープ(さぼること、こっそりぬけ出して休むこと)」

と、小さく声を出して言ってみた。

そうだ、これはエスケープだ、わたしは、またいつかあの世界に戻っていかなければならないのだ、と、まいは知っていた。泣きたいような気持ちだった。ああ、でも、とりあえずここは、なんて気持ちがいいんだろう……。

「まーい」

後ろで呼ぶ声がして、振り向くとおばあちゃんがバケツを両手に提げて立っていた。

③「さあ、摘みましょう」

すぐにそれが野いちごのことだとわかった。

「これ、すごいね、おばあちゃん」

まいは、目を させながら立ち上がって、おばあちゃんの方へ歩いた。

「ジャムをつくるんです。さあ、がんばって摘んでしましましょう」

「わかった」

まいはおばあちゃんと並んで、しゃがんで摘み始めた。おばあちゃんはバケツを重ねて三つも持ってきていた。まいはまさかと思っただけでも、結局最後には、三つとも満杯ばいになった。

おばあちゃんは手を動かしながら、亡くなったおじいちゃんは普通のストロベリージャムよりもむしろこのワイルドストロベリージャムのほうが好きだった話や（おばあちゃんは特に「ワイルド」のところに力を入れたものだ）、おじいちゃんが本当に自然を愛していたこと、特に鉱物が大好きだった話をした。

④まいは聞きながら、おばあちゃんはおじいちゃんを失ってからどんなにつらかっただろうと思った。でも、それが本当にはどういふことなのか、少しもわかっていなかったんだ、と、まいはずつと後になって思っただった。

赤い野いちごの緑の茎くきには、ひっきりなしに黒いアリが登ったり降りたりしている。その実を口に入れるとひなた臭くさい甘味があつて、プチプチと何か舌さわに触る。

「まいのおかあさんは、木いちごのほうが好きでしたよ。そっちは、もう一ヶ月ほど待たねばなりませんけど」

「おかあさんも、こうやって手伝ったの」

おばあちゃんは首を振って、

⑤「あのころは、ここにはこんなに野いちごはありませんでした。おじいちゃんが亡くなった次の年からでしたよ。こんなに増えたのは」

「ふーん」

⑥まいはその年のことを想像しようとした。おばあちゃんが、さつきのまいのように、初めてこの一面のルビーのじゅうたんを目にしたときの感激を。

「まるでおじいちゃんからのプレゼントのようだね」

「本当にそうなのです、なぜなら……」

おばあちゃんは意外なほどまじめな声で言った。

⑦「その日は私の誕生日でしたから。私には、その意味がすぐわかりました。おじいちゃんは、それまで毎年私の誕生日を忘れたことはありませんでしたから」

まいは何と言つていいのかわからなかったが、とりあえず、

「おばあちゃん、うれしかったでしょう」

と言った。おばあちゃんはにっこりして、

⑧「うれしくて、うれしくて、ここにうずくまって泣きました」

まいは、そのときのおばあちゃんの姿が急に目の前に現れたような気がして、慌あわててまばたきした。

（梨木香歩『西の魔女が死んだ』より。一部表記を改めたところがあります。）

問1 線①「あの世界」とありますが、それはどんな世界ですか。文中のことをばを使って答えなさい。

問2 線②「とりあえずここは、なんて気持ちがいいんだろう……」とありますが、文中の「……」が表しているものの説明としてあてはまるものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 自然の中で、泣きたいような気分をまぎらわしたので、あの教室にもどうかと迷いはじめたこと
イ 重く煮詰まったような世界を離れ、今だけでも、すがすがしい空気を味わっておこうという思い
ウ 野いちごの群生した家なので、さみしくなつて、がん張れるのかと不安な気持ちになつたこと
エ みずみずしくて気持ちがいい中で、エスケープした後ろめたさを忘れてしまおうと苦勞している姿

問3 ——— 線③ 「さあ」と同じ使い方をしている「さあ」をふくむ文を次から選び、記号で答えなさい

ア さあ、みんな帰ろう。

ウ さあ、これは弱った。

イ さあ、とうとうできたぞ。

エ さあ、という時に備えよう。

問4 文中の にあてはまることばを次から選び、記号で答えなさい

ア 白黒
イ 丸く
ウ 三角に
エ 細く

問5
線④「それ」、⑤「あのころ」のさすものを答えなさい

問6 線⑥「まいはその年のことを想像しようとした」とありますが、まいは「その年」のどんなことを想像しようとしたのですか。35字以内で答えなさい。

問7 ― 線⑦「私には、その意味がすぐわかりました」とありますが、この時「おばあちゃん」はどういう意味に理解したのですか。30字以内で答えなさい。

問8 ー線⑧「うれしくて、うれしくて、ここにうずくまって泣きました」とありますが、この時の「おばあちゃん」の気持ちの説明として最も良いものを次から選び、記号で答えなさい。

ア おじいちゃんはどう帰つてこないという悲しみを感じながらも、毎年の誕生日を死んでも忘れないというおじいちゃんへの愛情に感激している。

イ おばあちゃんの好きな宝石がルビーであることを覚えていたことはうれしいけれど、おじいちゃんからも二度とプレゼントをもらえないことはさみしいと思っている。

ウ　今まで、おくり物をしてくれたことがなかったおじいちゃんの初めてのプレゼントに感動して、思わずうれし泣きをしてしまった。

エ おばあちゃん、おじいちゃんを失ってからつらかったけれど、ルビーのような美しいプレゼントに少しなぐさめられている。